

## 第5回安芸高田市学校給食検討会議の概要報告

日 時 平成 18 年 12 月 25 日 13 : 30 ~ 16 : 15

場 所 安芸高田市教育委員会 会議室

### □ アンケート調査結果の報告

#### ■ 調査報告の修正に係る内容とポイント（事務局説明）

<修正>

##### ○ データの追加

- ・保護者における調査分析の中で、現行の実施方式別（完全給食・補食給食・ミルク給食）の集計表を加え、方式別の詳細な傾向がわかるようにした。
- ・アンケート調査の大きな柱である「中学校給食に関する意向」の全体傾向をみることを目的に、児童・生徒及び保護者を合わせた全体の調査結果と分析について、データの追加及びまとめに記述を追加した。

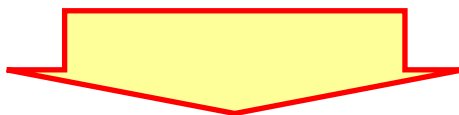
##### ○ 中学校給食に関する「傾向」について加筆した

##### ○ 「調査のまとめ」を「調査結果と分析」の後に順序を並び替えた

##### ○ 「今後の課題」を頭だした

<「調査のまとめ」ポイント>

- ① 児童・生徒は学校給食（完全給食・補食給食）に対する好感度は高いが、中学校給食は弁当がよいとする全体傾向の要因・背景について考察を加えた。記述内容としては、児童については、「弁当」がこれまでの体験から、遠足や野外の楽しい行事・イベントを連想させ、さらには好きなものが多く入っているとといったプラスイメージに働くことが推測できるとした。生徒については、学校給食校の生徒が学校給食がよいとする傾向、ミルク給食校の生徒が弁当がよいとする傾向が高いことを踏まえ、児童と比較して、給食に関する思い入れや期待は強くなく、現在の方式で十分満足していることが推測できるとした。こうした「特に児童の中学校給食は弁当がよいとする傾向が高いこと」を受け、今後の対応策としては、「たとえば、月1回『弁当の日』をもうける」としている。
- ② 今後の課題について、項目を追加し4点掲げた。
  1. 学校給食における量や体調管理の課題が見えた
  2. 補食給食の問題点
  3. 学校給食の現場からの積極的アプローチと態勢づくり
  4. 家庭における役割や食育の充実を促進



- ◎ 「中学校給食に関する意向」として、児童・生徒及び保護者を合計した集計結果については、児童・生徒と保護者別の集計結果を再掲し、ポイントの焦点化を行う。
- ◎ 「今後の課題」について、啓発内容の記述にする。
- ◎ アンケート調査結果の報告について、これまでの検討会議での意見概要等と併せて HP 等を通じて、広報を図り、広く意見を求める。
- 必要な変更・修正について、事務局に一任。

## □ 給食調理施設のあり方

### ■ 「学校給食衛生管理の基準」運用の観点から施設の配置パターン想定

(中電技術コンサルタント説明)

#### <配置パターン>

- ① 給食調理場 1 箇所方式    ② 給食調理場 2 箇所方式  
③ 給食調理場 3 箇所方式    ④ 単独調理場方式

#### <メリット・デメリット>

- ・ 各方式とも初期投資額の大差はないが、維持管理費の差が大きいため、調理場 1 箇所方式がコスト的には最良。[単独調理場方式では、10 年間の試算で調理場 2 箇所方式のほぼ 2 倍のコスト]
- ・ 衛生管理の面では、施設数が少ないほど管理が容易でリスクは軽減される一方、万が一に食中毒が発生した場合の大量発生リスクは高い。
- ・ 配送面で、調理場 1 箇所方式は配送時間が長くなり、給食の保温の面や配膳面での時間的な余裕が少ない面がある。現在の学校の配置を考えると、調理場 3 箇所方式が配送に関しては、理想的な時間内での配送が可能。

### ■ コンサルの説明を受けての意見

- 子どもたちの食生活を考える上で、最良の手段を考えていくこと。
- 保育所給食や学校の適正配置の方針など総合的に検討しなくてはならない行政課題はある。
- 今後 5 年間で、児童・生徒数の大きな増減はないのか。[推計：⑱2,500 名→㉓2,300 名]
- 配送上の留意点として、調理から 2 時間以内で食べることができること。
- 配食時間や給食時間について、改善すべき点があるか検討し、必要な条件整備を提案していくこと。